持続可能な社会 実現のために

千西一週

第88号
発行
2022年3月4日
上田西高校
新聞委員会
編集局
編集局長：藤田珠寿
新聞委員長：辺見咲良
生亀亜実
宮原佐和

昨年12月15日、上田映劇にて、ゲストを招いての映画「グレタ　一人ぼっちの挑戦」の上映会兼トークセッションが催された。編集局では、映画、セッションの内容、主催者へのインタビューなどをまとめた。また、3日後の12月18日に行われたオンライン取材会「ＳＤＧｓと英語について」に参加し、内容をまとめた。今回は、関連するサイトへ飛べるＱＲコードを掲載した。記事を読んで興味を持った方は、ぜひ学びを深めてほしい。

世界を動かす若い力

映画「グレタ　一人ぼっちの挑戦」

２０１８年、当時15歳だったスウェーデン人のグレタ・トゥーンベリさんは、たった一人で学校ストライキを始めた。この活動はその後、若者を中心として日本を含む全世界に広がり、大規模なムーブメントへと変化を遂げる。今回題材となった映画はそんな彼女に数年間密着して撮影されたドキュメンタリー映画だ。

左から、ＮＰＯ法人上田市民エネルギー理事長で主催者の藤川まゆみさん、阿部守一長野県知事、上田高校１年の桑田彩芭さん、長野大学2年の五十嵐千紗さん、活動家兼モデルの小野りりあんさん、土屋陽一上田市市長　写真撮影＝宮原佐和

映画は、グレタさんの報道されたような怒りに満ちた姿や、アスペルガーという特徴だけではなく、同年代の人間としての穏やかな一面や、弱い一面もしっかりと捉えていた。彼女は予想したよりも、普通の家庭で育った普通の人だった。

インターネットが普及した現代において、何らかの活動をすると化を起こす可能性を持つ一方で、大きな批判を受ける可能性も孕んだ行為だ。また、ムーブメントの拡大は、主催者の意図から離れた行動を引き起こすという危険もある。だが、彼女は逃げることなく活動を続けた。それが世界を動かしたのだ。

自分にできる小さなことから

後半のトークセッションでは、阿部守一長野県知事、土屋陽一上田市市長、活動家兼モデルである小野りりあんさん、長野大学の学生である五十嵐千紗さん、上田高校の生徒である桑田彩芭さんをゲストとして招き、ゼロカーボンについて意見を述べ合った。セッションの中で、それぞれの学校で、地域を巻き込んだワークショップを実施している五十嵐さんと桑田さんは、自分にできることは小さくても、チャレンジしていくことが大切だと話した。また、小野さんは、サミットに参加した経験を通して、「現在の目標では足りない部分があり、改善していく必要がある」と話す。それらを受けて、県知事や市長は現在進行中の企画などに活かす方針を示した。このように、活動家と政治家をつなぐ機会をもっと作れば、さらに有意義な企画が生まれていくのではないかと思う。

上映会に参加した沓掛生徒会長をはじめとした生徒会役員。多くのメンバーが参加し、考えを深めた　写真撮影＝宮原佐和

上映会に参加した生徒会役員の中澤凛菜さんは、「地球温暖化の深刻さを感じたグレタさんがたった一人出始めたことが多くの人の心に届き、一緒に解決していこうとする前向きな姿にとても感動しました。私にもできることを探して環境としっかり向き合いたいと思いました」と振り返った。

今は夏休み 最後の日

最後に、主催者であるＮＰＯ法人上田市民エネルギーの理事長、藤川まゆみさんに今回の企画の狙いや私たちへのメッセージを伺った。

藤川さんは、今の地球環境の状態を「夏休みの最後の一日」にたとえ、一刻も早い行動を呼びかけた。また、たまたま『まだ戻れる』時代に生まれた私たちは、「将来世代への責任を果たすべきだ」と語った。

環境の改善に経済の後退というネガティヴなイメージがついてしまったと懸念を示す専門家もいる。そんな今だからこそ、私たち一人一人が地球環境に関心を持つことが大切になってくる。美しい地球を未来世代にみせられるかどうかは、今を生きる私たちの行動一つ一つにかかっている。

（宮原佐和）

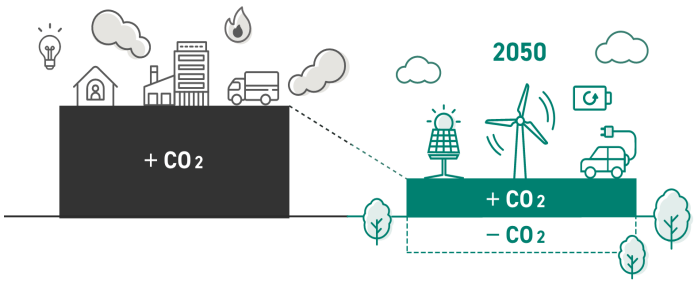
グレタ=トゥーンベリさんプロフィール

２０１９年に開催された、国連温暖化対策サミットでのグレタの演説全文。写真＝ＮＨＫ政治マガジン

グレタ＝トゥーンベリ（１９）はスウェーデンの環境活動家。２００３年１月３日ストックホルム生まれ。幼いころより環境問題に関心を持ち、２０１８年後半より学校での気候変動に対するデモとスピーチを開始した。

数々の国際会議に参加し、フォーブズの「世界で最も影響力のある女性」に選ばれるなど、世界の注目を集めた。　彼女の影響は全世界の若者に広がり、各地で気候変動に対するデモを引き起こすことになる。

命運を握るゼロカーボンとは



ゼロカーボン（カーボンゼロ・カーボンニュートラル）とは、企業や家庭から出る二酸化炭素などの温暖化ガスを減らし、森林による吸収などと相殺して「実質的な排出量をゼロにする」こと。日本政府は２０２０年に、２０５０年までの達成を目指すことを宣言した。

環境省が運営する「脱炭素ポータル」のホームページ。ゼロカーボンについて図などを豊富に用いて解説している。
引用＝脱炭素ポータルより。

ＳＤＧｓを他人事と考えない

生徒一人一人の問題解決に向けた第一歩を

12月17日に慶應義塾大学で認知意味論、英語教育、コミュニケーション論を研究する、田中茂範さんにＳＤＧｓについて取材を行った。

ＳＤＧｓとは国連採択の国連目標であり17のゴールと169の達成目標からなっている。田中さんからはただ17の目標について詳しく説明されたのではなく17の目標をどう達成していくのか、目標は一つ一つではなく相関関係があることを主に「生徒ひとりひとりのＳＤＧｓ社会論」をテーマに教わった。最初にＳＤＧｓの成り立ちを聞いた。ＳＤＧｓはもともとＭＤＧｓ（ミレニアム開発目標）という２０００年に国連で採択された「安全で豊かな世界を作る」という８つの目標、21のターゲットを２０１５年までに達成することを目標としたものである。８つの目標は現在のＳＤＧｓと被るものも多いが中には当時の時代背景ならではのものもある。それをベースに現在のＳＤＧｓは作られた。

田中先生の提唱する新しいＳＤＧｓの分け方。従来のものよりわかりやすくなっている。
写真＝オンライン取材会より

ＳＤＧｓの再分類とその相関関係について

田中さんはまずＳＤＧｓの17の目標の再分類が必要だと話した。貧困・飢餓の問題には１番と２番、教育・健康の問題には３番と４番と６番、権利の問題には５番と10番と16番、地球環境には13番と14番と15番、生活・経済の問題には７番と８番と９番と11番と12番、そして17番は全体的な目標としてそれぞれ当てはまる。

そしてそれぞれの分類ごとに相関関係がある。それらを踏まえるとＳＤＧｓとはとても大きな問題であることが分かる。現に大企業ソニーの協生農法が、アフリカのブルキナファソという砂漠化し自然回復が不可能だった土地を一年間で森林生態系の回復に成功した

田中茂範さんプロフィール

引用写真＝オンライン取材会資料より

１９５３年生まれ。岡山県出身。コロンビア大学大学院博士課程修了。認知意味論※、英語教育、コミュニケーション論を研究。単語や文法などの中心的イメージ「コア」から英語表現の根幹を理解し、「使いたくなる英語」の習得法を提唱している。慶応義塾大学教授のほか、ＮＨＫテレビの英語番組講師、ＪＩＣＡ（国際協力機構）講師などを歴任。編著書に「コトバの《意味づけ論》」「イメージでわかる単語帳」「Ｅゲイト英和辞典など多数。今回は、文化プログラムセンターの企画で、中高生むけにさまざまな事柄に関連する英語についての講義を行った。

あわせて おさらい！ＳＤＧｓ

引用＝経済産業省ＨＰより

ＳＤＧｓとはSustainable Development Goalsの略で、「持続可能な開発目標」とも呼ばれます。

17のゴールと169のターゲット、232の指標があり、２０１５年の国連サミットで、２０３０年の達成をめざして採択されました。日本も参加しています。

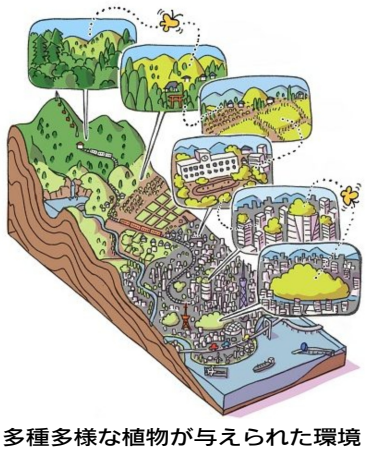
政治面では、２０１６年に当時の安倍総理が中心となり、「持続可能な開発目標推進本部会合」の開催が始まりました。２０１９年末には「ＳＤＧｓアクションプラン２０２０」が発表されています。

経済面では、２０１７年に経団連（経済団体連合会）が行動企業検証を改定し、「Society5.0」というコンセプトの元ＳＤＧｓに取り組むとのべました。（宮原佐和）

Society5.0についての情報が集まる経団連のホームページ。

自分に引き寄せ問い続ける

ここまで聞くと多くの人は17の目標はどれをとっという例を始めとし、多くの立派な取り組みがあるが、それらだけで巨大なＳＤＧｓという問題を解決することは果たして出来るのだろうか。


多種多様な植物が与えられた環境条件のなかで、競合や共生をしながら各々最大限に成長する「生態学的最適化状態」を作り出し、植物の特性を活かしながら生産する「協生農法」のモデル。
引用＝マイナビ農業HPより

ても国連や大企業のような大きな組織が取り組むべき問題、自分には直接関係ないと思ってしまいがちだという。だがＳＤＧｓが挙げているような問題を抱えた社会とはどういう社会かを自分に引き寄せて問い続け、何ができるか、そして何をすべきかを自分事として考え続けることが生徒の中に息づくＳＤＧｓ社会論である。（生亀 亜実）

コラム　多様な視点から

ＳＤＧｓの内容についてだけではなく、物事の捉え方や学び方に関する講義も行われた。その中で、田中先生は「視点」が大切であると話した。物事を見るとき、我々には、「視座」「視野」「視点」という３つのポイントがある。大量の、しかも正誤のわからない情報が溢れる現代においては、多様な視点で持って物事を一つ一つ吟味していくことが問題解決の鍵であるとした。また、多様な視点で捉えた面だけではなく、その物事についてくる関係性にも注目し、思考することが、新しいアイディアや問題解決につながっていくと話した。

さらに、それらをグローバル単位で行うためには、英語によるコミュニケーション能力は必須であるとし、英語を学ぶ際のポイントなどにも言及。自分の専門分野と、現在世界で起こっている問題の関係性に着目して話すという、これまでに話したメソッドを実践し、道筋を示した。

ＳＤＧｓが声高に呼びかけられるようになってかなりの年数が経過した。しかし、新型コロナウイルスの蔓延によりその達成は遠のき、首脳をはじめとした政治家たちはＳＤＧｓの達成よりも国内を守ることに注力している。しかし、ＳＤＧｓについて学ぶことを私たちは続けるべきだ。なぜなら、これは世界の問題を濃縮したものであり、私たちは世界の中で生きているからだ。世界市民として、正しいプロセスで考えていくことの大切さを、改めて考えさせられた。（宮原 佐和）